

20(令和2)年度 一般会計と特別・企業会計の予算

※お知らせする数値は、項目ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

問合せ 市役所財政課(☎31-4512)

一般会計 総額995億円

一般会計とは、教育や福祉、土木など基本的な行政運営に要する経費を、市税などを主な財源として経理する会計のことです。

20(令和2)年度予算編成においては、「歳入に見合った歳出」規模の実現のため、これまで実施してきた「予算の総点検」を継続しつつ、限られた財源を、目指すべきまちづくりの実現に資する事業へと重点的に投資し、健全で安定した財政運営を確保することに努めました。

その結果、目指すべきまちづくりの実現に必要な一般財源に相当する額である11億円と、19(令和元)年度から4年間見込まれる公債費の増加分3億円を合わせた、14億円を市の貯金(減債基金)から取り崩し、総額995億円(前年度比42億円増)の予算を組むこととしました。

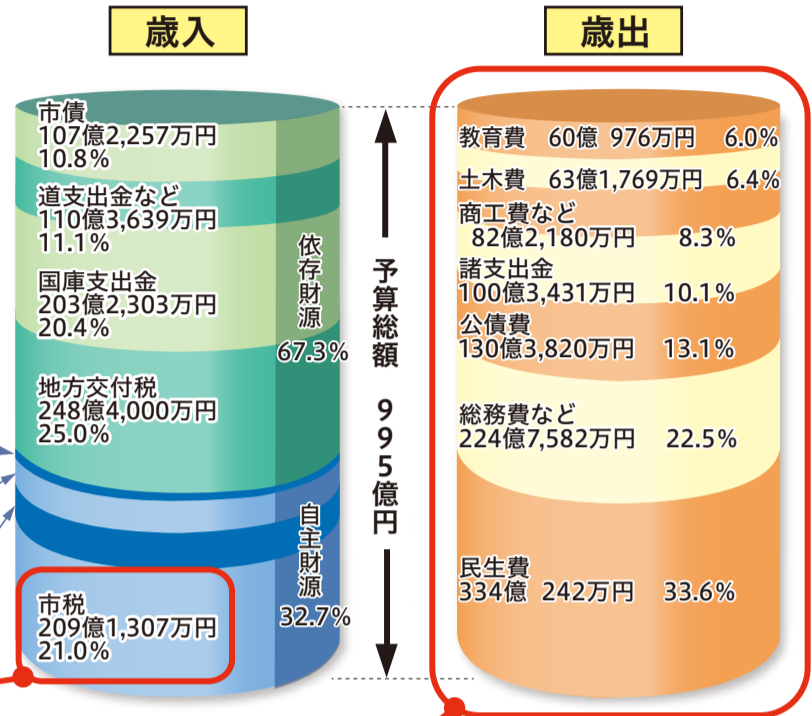
※依存財源

補助金など、国や道の意思により定められた額を交付されるもの。

※自主財源

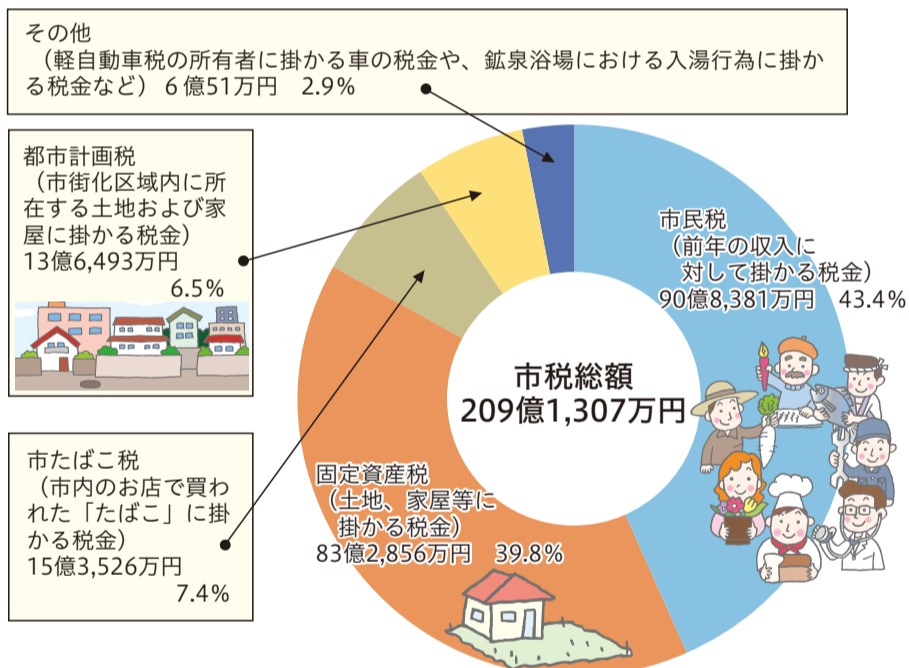
税金や公共施設の使用料など、市が自分で集めるもの。

- 減債基金の取り崩し 14億円 1.4%
- 諸収入 50億8,039万円 5.1%
- 使用料など 51億8,455万円 5.2%



市税の種類とその内訳

予算における市税の種類とその内訳は、下図の通りです。皆さんに納めていただく市税を貴重な財源として、各種施策に活用していきます。



※市税の種類ごとの比率は、市税総額209億1,307万円に対する割合

予算を市民1人当たりになると?

一般会計の予算を市民1人当たりで換算すると、59万3,718円となります。市民生活の向上や地域経済の活性化などのため、各種施策に取り組んでいきます。

20(令和2)年度予算 市民1人当たりのサービスに掛かる経費		
民生費	児童、高齢者、障がい者のための施設の整備や福祉サービスなどに	19万9,313円
総務費など	市役所の運営や公衆衛生、消防活動などに	13万4,113円
公債費	道路、公園、学校などの施設をつくるために借り入れた市債(借金)の返済に	7万7,799円
諸支出金	病院や水道事業などの運営に	5万9,875円
商工費など	商業や工業、観光の振興や港湾施設の維持管理などに	4万9,060円
土木費	道路、公園、公営住宅などの建設や維持管理に	3万7,698円
教育費	教育施設の建設や学校教育に	3万5,860円
合計		59万3,718円

※予算総額995億円を人口16万7,588人(20(令和2)年2月末現在)で除して算出

特別会計 総額382億2,575万円

特別会計とは、特定の事業やサービスを提供するために、利用者から保険料や使用料などをいただき、その財源をもとに事業を運営していくために設けられた会計のことです。市には、下表の8会計があります。

会計名	国民健康保険	国民健康保険阿寒診療所事業	国民健康保険音別診療所事業	後期高齢者医療	介護保険	魚揚場事業	駐車場事業	動物園事業	
予算額	169億4,198万円	4億6,528万円	3億3,153万円	25億2,206万円	170億6,349万円	1億2,854万円	2億6,597万円	1億2,400万円	3億8,290万円
主な収入	国民健康保険料	診療収入	診療収入	後期高齢者医療保険料	介護保険料	サービス収入	魚揚場使用料	駐車場使用料	動物園入園料

企業会計 総額427億6,602万円

企業会計とは、自ら事業を行い、そこから得たお金で運営していく、民間企業と同様の経理を行う会計のことです。市には、下表の7会計があります。

会計名	病院事業	水道事業	工業用水道事業	農業用簡易水道事業	下水道事業	公設地方卸売市場事業	港湾整備事業
予算額	208億1,582万円	96億6,362万円	1億5,469万円	3,265万円	109億118万円	1億7,462万円	10億2,344万円
主な収入	診療収入	水道料金	工業用水道料金	水道料金	下水道使用料	市場使用料	港湾施設使用料

※20(令和2)年度から、農業用簡易水道事業は特別会計から企業会計へと移行しました。



20(令和2)年度 市全体の予算総額 1,804億9,177万円